

ドイツ連邦食料・農業省プレス公告
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft
NO 28

NO 28

2016・7・15

1 ドイツの有機農業・経営数も面積も増加

ー2015年における有機農業の構造データー

ドイツにおける有機農業は、2015年にさらに安定的に成長している。これは各州の年次報告から、明らかになった。有機農法で営んでいる農業経営は、24,736で前年より5,7%多くなっている(2014:23,898)。有機農法で栽培している面積は1,088,838 haで、前年比で約3,9%増加している(2014:1,047,633 ha)。

これについて、連邦農業大臣シュミットが説明した：ドイツの有機農業における経営と面積の数値は、安定して増加している。有機市場もまた、成長している。2015年にはドイツの有機市場において、80億ユーロ(約9,600億円)以上の売り上げを得ている。傾向的には、より強く上昇している。この数値は示している：”この間に慣行農業と並んで、ドイツの農業―食料業の重要な有機農業が、消費者にとって常に好まれている。

私の目的はドイツにおける有機農業を、さらに促進することである。私は、この理由から有機農業の将来戦略を提唱している。私は、消費者と有機食品業界の信頼を強化するために、ブリュッセルでEU一有機規則の迅速な修正について尽力する。その際、購入者は次のことを頼りにしている：有機産物がどこにあるのか。すぐに見つけられるか。

全体的にドイツの農業経営に対する有機経営の割合は、8,7%であった(2014:8,3%)。全農地に占める有機農業の割合は、6,5%であった(2014年：6,3%)。有機農業は、2015年に全体で38,259の生産者、加工処理業者、輸入業者、販売経営が従事している。ドイツにおける2015年有機農業の構造データは次で得られる：www.ble.de/strukturdaten-oekolandbau

2 農業における重要なデータ：研究プロジェクト「作物ウォッチ」

研究計画「作物ウォッチ」のための補助金決定通知の伝達―作物保護のための適切な計画のために、穀物生育現況の電子工学での観察―そして施肥対策

プロジェクト「作物ウォッチ」に係る補助金決定通知伝達のため、ボン大学作物研究所を訪問した、連邦食料・農業省の政務次官ペーターブレイザーが説明した：農業生産プロセスのデジタル化は、常により多くの重要性を獲得している。その際、農業における技術革新のための重要な貢献は、無人飛行システムが果たしている。ドローンは特殊なセンサーとカメラを装備し、重要なデータを提供する。

例えば作物の生育状況：

我々は、これでもって農業における資源効率性を、明らかに改善することができる。そして持続的な農業生産を、具体化できる。連邦食料・農業省は、総額約 2,900 万ユーロ（約 34 億 800 万円）でもって、資源効率性を高めるための農業技術における革新を、奨励する。我々は、効率性と伴ったそして同時に資源を大事にする農業を促進する。

背景

「作物ウォッチ」の目的は、作物生産プロセスの分析と管理のための、データマネジメントシステムの発展である。これは、2つの測定システムを開発するものである。1つ目の測定システムは、トラクターに装着したデジタルカメラからデータを得る。2つ目のシステムは、ドローンに装着したデジタルカメラから、データを送付する。

このシステムでもって、ラジオメーター（訳注・放射されるエネルギー、照度など測定する装置）と位置的なデータが得られる。そして作物の成長にとって重要な媒介変数（例えば、作物の生育に伴う農地カバーの度合、作物の茎の高さ、穂の量、熟度など）を導き出す。このことは、新しくプログラミングされた計算手順を用いて、行われる。天候データ情報、作物の生育する場の特性管理と、収穫結果を予測する。

それはどのような天候条件が、成長を制限的に影響するか、そして作物の生育がどのような状況かを判別する。農業者または栽培者は、得られた情報を引き続き自動的に、そして操作しやすいインターネットを利用できる。畑または栽培園地の複雑な生育状況の視覚化のあと、作物の収穫条件、作物管理対策の効果をデモンストレーションし、そして環境の影響による作物の生育反応を解析する。

研究計画の全体額は、3年間の実施期間で100万ユーロ（約1億2,000万円）である。その内連邦食料・農業省から766,000ユーロ（約9,192万円）が、革新プログラム奨励される。さらに詳しい情報は、下記から得られる。

www.bmel-forschung.de

2016・7・18 訳 青森中央学院大学 中川 一徹
